

第44回

喜多流

青年能

弓八幡

高林

昌司

東北

佐藤

陽

車僧

狩野

祐一

平成30年9月22日(土)

◆12:00開演(11:15開場)◆

十四世喜多六平太記念能楽堂



主催: 公益財団法人 十四世六平太記念財団
協力: 喜多流職分会
後援: 品川区・品川区教育委員会
助成: 文化庁(平成30年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業)

チケットご購入のご案内

一般4,000円(前売3,500円)/学生2,500円(前売2,000円)

全席自由席

発売日:平成30年6月24日(日)

インターネット 24時間対応/要事前登録(無料)

喜多能楽堂ホームページ

<http://kita-noh.com/>

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

②窓口(喜多能楽堂事務局)

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのWeb決済)、ご予約の際画面に表示された番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813

【お受取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金を指定の郵便振替口座にお振込みください。入金確認後、チケットをお届けいたします。

③窓口(喜多能楽堂事務局)

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓 □ 午前10時~午後6時/休館日あり

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813

【お受取り・お支払い】お支払いは現金のみとなります。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

・各同人でもチケット受付しております。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL 03-3491-8813



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

お客様専用駐車場はございません。お車での来館はご遠慮願います。

次回喜多流青年能予告

平成31年5月25日(土)11:15開場/12:00開演

能「田村」谷友矩

能「二人静」狩野祐一

能「舍利」金子龍晟

ほか狂言・仕舞

番組

雲雀山 金子龍晟
船橋 谷友矩

狩野祐一
友枝真也
大島輝久
佐藤陽

仕舞

能

シテ連(男) 友枝雄太郎

後シテ(高良の神) 高林昌司
前シテ(老翁)

弓八幡

野口琢弘
野口能弘
吉田祐一
竹山悠樹
高林呻二
塩津圭介

大鼓 佃 良太郎
小鼓 飯富孔明
太鼓 林 雄一郎
笛 小野寺竜一
金子龍晟
友枝真也
金子敬一郎
長島 茂
栗谷充雄

地謡

後見

アイ(八幡山下の者)

狂言

瘦松

シテ(山賊) 野村太一郎

アト(女) 岡 聡史

休憩二十分

能

後シテ(和泉式部の霊) 佐藤 陽
前シテ(里女)

東北

大日方 寛
則久英志
梅村昌功
石田幸雄

大鼓 柿原光博
小鼓 森 貴史
笛 杉 信太郎

後見

栗谷浩之
友枝雄太郎

金子龍晟
佐藤寛泰
塩津圭介
谷友矩
内田成信
粟谷明生
大島輝久

休憩十五分

能

後シテ(天狗) 狩野祐一
前シテ(山伏)

車僧

ワキ(車僧) 森 常太郎
アイ(愛宕山の溝越天狗) 野村太一郎

大鼓 柿原孝則
小鼓 森澤勇司
太鼓 澤田晃良
笛 栗林祐輔

後見

佐々木多門
谷友矩

内田貴成
高林昌司
佐藤 陽
友枝雄太郎
高林呻二
狩野了一
中村邦生
友枝雄人

附祝言

四時半頃終了予定

弓八幡(ゆみやわた)

京都南にある男山・石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)で、ご神事が行われ、後宇多天皇の命により勅使が送られる。多くの人が参拝する中に、若い男を伴った老人が、錦の袋に弓を入れ携えていた。勅使が声を掛けると、自分は八幡宮に永く仕える者で、この弓は天皇への捧げものであると言う。勅使は喜んで弓の袋を受け取り、早速神前で中を拝見しようと言うが、老人と若い男はこれを止める。二人は「弓は袋に、剣は箱に収められていてこそ、天下泰平の象徴なのだ」と言う。感心した勅使の求めに応じ、老人は日本において弓を用いて天下を収めたいわれを数々語る。そして八幡神の神徳を称え、実は自分はその末社である高良明神(かわらみょうじん)であると明かし姿を消す。(中人)

地元の者から八幡神のいわれを詳しく聞いた勅使は、京都に帰り天皇へこのことを報告しようと思いつつ。その時、山から霊妙な香りが漂い、音楽が聞こえ、その中に高良明神が真の姿で現れる。高良明神は颯爽と舞を舞い、八幡神の加護のもと平和に榮える、天皇の治世を寿ぐのであった。

東北(とうぼく)

東国からの旅僧が東北院で梅を眺めていると、門前の者が、梅の名は「和泉式部」であると教え、去る。その後、一人の女が現れ、本当は「軒端の梅」というその梅の名と謂れなどを語るが、やがて木陰に隠れ消えてしまった。(中人)

僧が夜すがら法華経を誦経していると、和泉式部の霊が現れる。霊は、生前、和歌を詠んだ功德により火宅を出で、悟りを得たことを語る。また、和歌の徳を讃え、東北院の事を語り、舞を舞い、梅の故事などを語り、そうして東北院の一室に消えて行くのだった。表題の元となった東北院は、京都、法成寺の東北の一郭に建てられた寺院。法成寺は藤原道長が建立した寺院であり、東北院はその敷地内に、娘である上東門院・藤原彰子により建立された。和泉式部は上東門院に仕え、東北院に梅の木を植え、軒端の梅と名付けこれを愛でたとされる。

車僧(くるまぞう)

「車僧」とは、牛を繋ぐ牛車を法力で乗り回す変わった僧である。ある雪の日、僧は車で嵯峨野、西山の麓に行き、雪景色を楽しんでいた。そこに天狗の太郎坊が、山伏に身を変えて車僧の前に現れる。太郎坊は車僧を魔道の道へ引き込もうと、禪問答を仕掛ける(修行僧が道を踏み外すことで天狗になると考えられている)。しかし、車僧に軽くあしらわれてしまったため、自分は愛宕山の太郎坊であると正体を明かし、自分の庵室にて再度行比べをしようと言え、黒雲に飛び乗り消えて行く。(中人)

その後、太郎坊に仕える木葉天狗の溝越天狗が車僧の隙を作ろうと現れるが、これも敵わず逃げ去って行く。やがて、太郎坊は大天狗の姿で現れ、車僧に行比べを挑む。牛の繋がれていない車を、太郎坊がいくら打っても動かすことは出来なかったが、車僧は払子を振りするだけで山路を駆け巡らせた。太郎坊はその法力に驚き、仏法を妨げることが諦めて、ついには敬意を表し、合掌して消え去って行くのであった。